

「福島県の図書館を考えるシンポジウム」参加者の声（アンケートより抜粋）

講演について

- ・電源交付金が図書館建設に大きくかかっている現状を明確にされ、とても参考になった。

被災地からの報告、パネルディスカッションについて

- ・当事者としてたずさわっている人の話が聞け、いまだ終わってないことを改めて感じた。
- ・司書が司書の役割が出来なくなって大変つらかったのではと感じました。又、自治体の職員として果たす役割も発生するのだと感じた。

全体を通しての感想、意見など

- ・図書館建設費から司書の人件費まで原発によってまかなわれ、現在は原発によって住まいを失われ、司書の仕事がうばわれているとは、複雑な思いがした。
- ・被災地の図書館の方の報告、思いを聞く機会、大変貴重でした。もらい泣きをしながらお話しをうかがいました。
- ・生の本当の気持ちが伝わり、今後の図書館再開についてもどかしさもよく理解できた。
- ・今までつとめていた図書館の業務をはなれて全くちがうことを仕事にする気持ち、さらにいつ戻れるのかわからないというのはとてもつらいと思います。貴重なお話をきくことができ、大変よかったです。
- ・この夏宮城県東松島市でボランティアに参加しました。ボランティアに入っていない原発被害を受けた福島県の図書館はどうしているのかずっと気になっていてこの機会に参加して被災地の図書館の司書のご苦労ご活躍の様子を生で聞くことができよかったです。ありがとうございます。自分にできることがあればぜひ協力したいと思います。図書館にできること持つ力についてあらためて考えさせられました。
- ・こういう自体（ママ）を引き起こした日本社会（私も含みますが）への怒りがふつふつとわいてきます。求められることがあれば、応じられるよう準備してます。
- ・これまでとその時!の話は添付資料でわかるので、現状と課題を中心にお聞きしたかった。どう協力したらよいかわかりにくい。
- ・被災地からの報告は図書館関係者以外の方々、特に東電の上層部に聞かせたかった。町の利用者をいまでも思い、3.11以前に戻りたい思いがとても強く感じられました。夢でなく早急に実現させたいと思いました。
- ・生の声の与える力は、マスコミ等から伝わるものとは比べものにならないくらいである。机上や空論ではなく、体験談を聞く機会をご用意していただき、ありがとうございました。
- ・ぜひ、この内容を広くPRして下さい。